

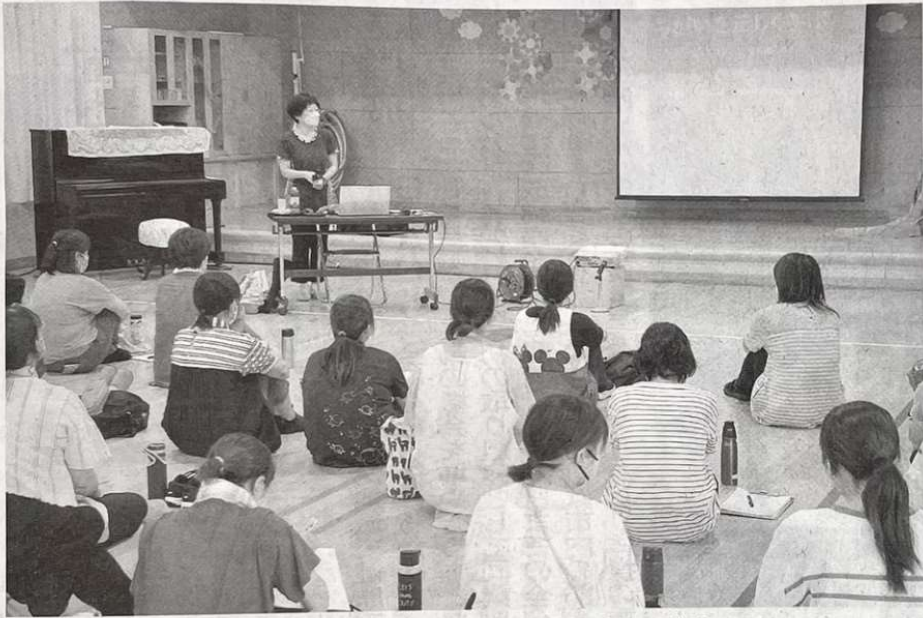
(第二種郵便物認可)

「吃音」正しく理解を

町教委 保小の職員向け研修

飯島

飯島町教育委員会には23日、言いたいことが頭に浮かんでいのにスムーズに話せない「吃音」について学ぶ保小の職員向け研修会を飯島小学校などで開いた。午前・午後の2回の研修



吃音についての正しい理解を深めた研修会

会に保護者を含む計80人ほどが参加。神應透析クリニック（松本市）の言語聴覚士・内藤麻子さんを講師に吃音についての理解を深めた。

内藤さんは音の繰り返しや引き伸ばしなど吃音の主な症状を説明した後、世界には100人に1人の割合で吃音と共に生きている人がいる現状を紹介。慌てたり、緊張したりしていても症状は起り、周囲がからかうなどすることで悪化し、話すのを諦めしてしまう場合もあるという。

「普通に話す」はつづられた認識」と内藤さん。周囲が吃音を正しく理解することで、症状のある子どもが自分らしく生活できる社会になってほしいと訴えた。「待つ」とは認めることとし、「子どもが自分の言葉で気持ちを伝えることは大切な経験」と強調。「待つことが当たり前前の環境づくりを」と話した。